

# 第13回 全国弓道指導者研修会

令和7年2月22日～24日 日本武道館研修センター



目的別研修（授業対応・部活動指導・初心者指導）

第13回全国弓道指導者研修会（主催＝日本武道館・全日本弓道連盟、後援＝スポーツ庁）が2月22日～24日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで実施された。

本研修会は中学校・高等学校教員、社会体育指導者を対象とした弓道指導者の養成・資質向上を目的としており、今年度は全国から64名の教員・弓道指導者が集まって受講した。

## ◆1日目（2月22日）

開講式では齋藤往子全日本弓道連盟業務執行理事と端春彦日本武道館振興部副参事兼振興課長が主催者挨拶を、高橋文彦主任講師が講師代表挨拶を述べた。



増淵敦人特別講師

研修では最初に、増淵敦人全日本弓道連盟中央委員・栃木県弓道連盟顧問による特別講演「早気の克服方法について」が行われた。

早気の要因には身体的要因、精神的要因、環境的要因があり、それぞれに関係し合う（複数の要因が重なる）場合もあるとし、対策と具体的な方法を自身の経験から紹介した。講演後には質疑応答が行われ、指導における悩みについて次々と質問が挙がった。

講演のあとは、高橋主任講師が射法八節の解説をした。射法八節は再現性を高める（的中を高める）ためでもあり見直すことは大切で、図解との違いが伸びしろである。指導にあたっては内容を十分に理解して伝えてもらいたいと話した。そのうえで、図や映像を用いながらポイントや注意点を説明した。

この日の最後には、グループディスカッションが行われた。受講生は班ごとに割り振られたテーマについて検討・協議。その後ワールドカフェ方式で、自班と異なるテーマの班に自由に移動し、その班の話し合い内容を聞いて意見を交換した。テーマは、「①卒業後も弓道を継続してもらうには」「②武道必修化に伴い弓道を採択する上で保護者の理解を得るには」「③部活動地域移行の現状・課題」「④学校弓道の最終目標」

「⑤ハラスメントに留意した指導」の5つ。

テーマ②を話し合った班では、「説明や保護者向け弓道教室により“見える化”を進めて安心感を持ってもらうことが重要」という意見が挙がっていた。最後に、高橋主任講師が講評を行い終了した。

また、夕食後には主に未経験者を対象として、自由参加の紐弓の作り方・使い方の説明会が開かれた。

### ◆2日目（2月23日）

はじめに、大道場で安土の設営を講師・受講生全員で行った。

初心者指導法の講義では、講師4名が初心者指導における要点・注意点などを話した。齋藤講師は武道と他武道の異なること、弓道の七つの要素を伝えた。辻尚宏講師は自己肯定感を高める指導のために、競争ではなく生徒全体を成長させる環境づくりが大事だと話した。川平俊博講師は動作のポイントの伝え方・分かりやすい教え方を説明。高橋講師は可能性を潰す言い方をしないことを強調したうえで、授業にも弓道にも共通することとして、生徒観・指導観・教材観がしっかりしていることが重要だと説明した。

目的別研修に移り、目的や段位に応じた4つの班に分かれて実技研修が行われた。

このうち「授業対応・部活動指導・初心者指導」の班は、教員や外部指導者など11名が受講した。



グループディスカッション

はじめに導入として教材の紹介や安全指導の説明。イメージを掴むため別グループの行射を見学した後、射法八節を徒手、紐弓、弓の順に練習した。午後には矢を番え、アーチェリー的に向かって近距離から、徐々に距離を離して放つなど、段階を踏んで習得できる指導が展開された。

他の班でも受講生の段位に応じて、指導法や射技研修が行われた。

### ◆3日目（2月24日）

引き続き目的別研修が実施された。

「授業対応・部活動指導・初心者指導」班はオリジナルルールの射会で研修成果を発揮し、最後に研修会の感想を発表し合った。

弓道経験は大学授業のみという受講生（教員）は、「経験がほとんどないので参加しづらいと思いながら申込んだが、自分が生徒になったイメージで参加できてためになった。もっと深めてみたいと思った」と感想を述べた。また、2回目の参加という受講生（弓道未経験・教員）は、「去年は研修で持ち帰ったものをそのまま使って授業をした。今回は知識が入り、自分で喋れる内容が身に着いた」と振り返った。

研修の最後には、特別演武として高橋主任講師・川平講師・辻講師が一つの射礼を披露し、受講生は見取り稽古を行った。

閉講式では受講生代表者に修了証が授与され、高橋主任講師が講評を行い、全日程を終了した。



弓道場での射技研修